

福島第一原子力発電所現地確認報告書

- 1 確認日
令和3年 3月 3日 (水)
- 2 確認箇所
物揚場排水路 (簡易放射線検知器設置箇所付近)
K2タンクエリア
- 3 確認項目
物揚場排水路における簡易放射線検知器「高警報」発生事象の対応状況
- 4 確認結果の概要
3月2日、18時18分に物揚場排水路に設置されている簡易放射線検知器 (以下、「PSFモニタ^{※1}」という。) において「高警報」が発生した事象^{※2}の対応状況について確認した。(図1)
 - ・現地確認時には、物揚場排水路のゲートは閉止されており、排水路に溜まった水を水中ポンプで回収する作業が継続して行われていた。また、水中ポンプによる回収と併せて、吸引車により回収する作業も行われていた。(写真1)
 - ・排水路に溜まった水が溢水した形跡やゲートからの流下は見られなかった。(写真1-2、写真2)
 - ・排水路から水中ポンプで回収された水は、既設の移送ラインによりK2タンクエリアの内堰内に移送されていた。また、吸引車により回収された水も同様にK2タンクエリアの内堰内に移送されていた。(写真3)

※1 PSFモニタ

プラスチック・シンチレーション・ファイバモニタの略語であり、放射線が入射すると光を発するプラスチック製ファイバ等で構成された装置である。A排水路、K排水路及び物揚場排水路に設置されており、排水路の放射能濃度を連続測定している。

東京電力は、PSFモニタの「高高警報」の値を3,000Bq/L、「高警報」の値を1,500Bq/Lと設定しており、「高高警報」が発生した場合、若しくは「高警報」が発生し汚染水の漏えいが確認された場合は、排水路最下流に設置しているゲートを閉止することとしている。

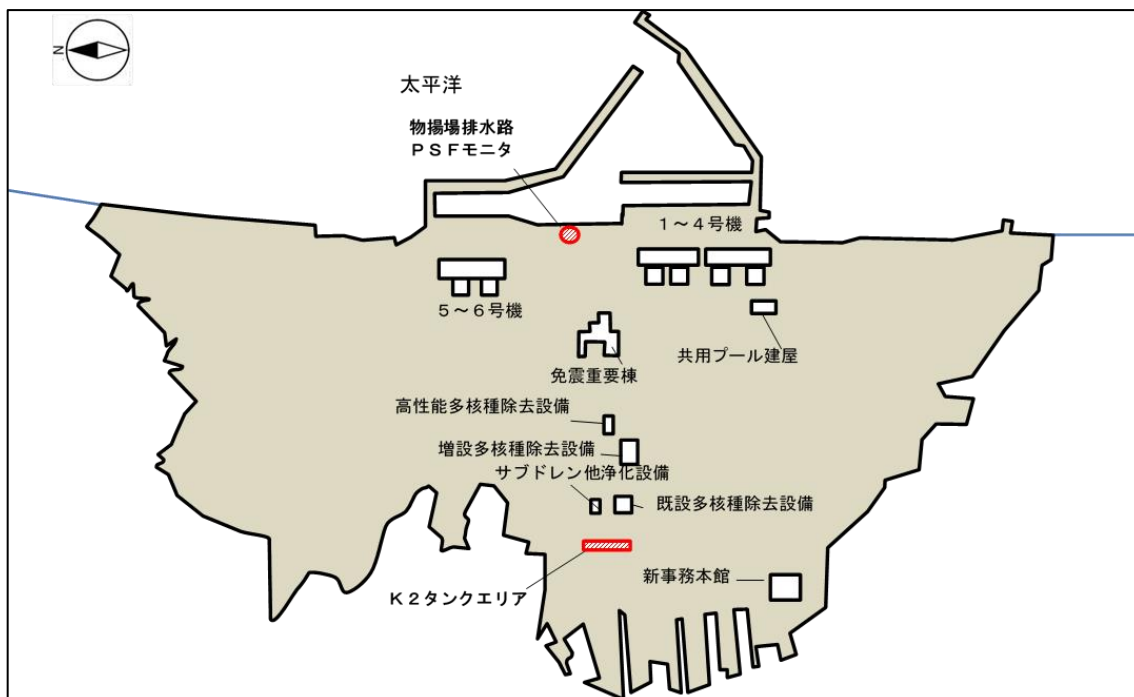
※2 物揚場排水路PSFモニタ「高警報」発生事象

令和3年3月2日18時18分に物揚場排水路に設置されているPSFモニタの高警報が発生し、その後低下して同日21時44分に警報がクリアになった事象。

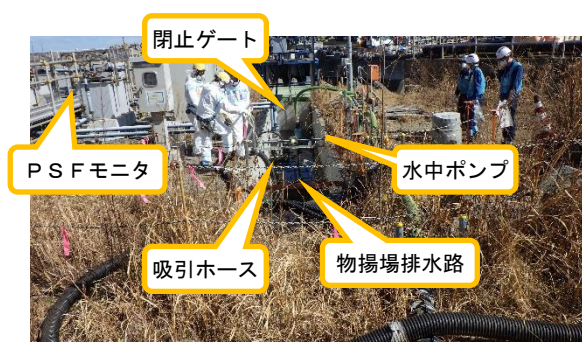
東京電力は、PSFモニタ指示値が低下傾向にあること、プラントパラメー

夕に異常がないこと及び分析結果等から汚染水の漏えいはないと考えられるものの、全ベータ放射能濃度が高い値を示していることから、同日23時40分に当該排水路最下流に設置しているゲートを全閉にし、3月3日0時28分から排水路に溜まった水の回収を開始した。

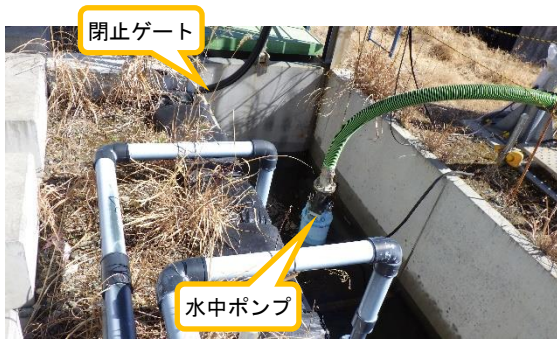
なお、東京電力は、当該排水路近傍の設備に漏えい等の異常がないこと、当該排水路近傍の海水の分析結果が通常の変動範囲内の値であること及び当該排水路の水の分析結果が継続して低下傾向にあることを確認している。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)
物揚場排水路 P S F モニタ 周辺での
作業状況 (西側 (上流側) から撮影)



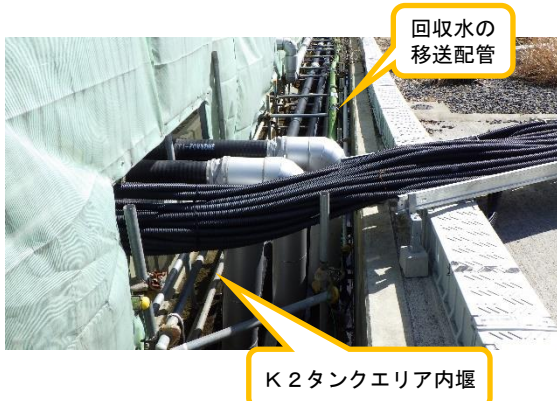
(写真1-2)
水中ポンプによる回収状況
(西側(上流側)から撮影)



(写真1-3)
物揚場における吸引車による回収状況
(物揚場北西側から撮影)



(写真2)
閉止ゲート下流側の状況
(港湾側から撮影)



(写真3-1)
水中ポンプ回収水のK2タンクエリアへの移送状況①
(K2タンクエリア南西端、西側から撮影)



(写真3-2)
水中ポンプ回収水のK2タンクエリアへの移送状況②
(K2タンクエリア南西端、南側から撮影)



(写真3-3)
吸引車回収水の移送状況 (K2タンクエリア北西側) (北側から撮影)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。